

質問（20 条関連）

RC 規準 P268, 「スラブの曲げモーメントに対する設計」において, スラブの引張鉄筋比が, 釣合鉄筋比を超える場合は, どのような算定が必要でしょうか? 梁に準じた算定でよいですか?

例えば, 小規模建築物のべた基礎にシングル配筋があり, 釣合い鉄筋比を超える場合には, 圧縮側のコンクリートが許容曲げモーメント以下となる検定が必要ですか?

同じ学会の「小規模建築物基礎設計指針」6.6 節 べた基礎 2.(1) 2)①にて, 「基礎スラブは, 実状に応じた構造モデルを選定し, 下から作用する接地圧に対して計算する。」となっており, 参考文献として, RC 規準が参照されていますが, 釣合い鉄筋比を超える場合については, 言及がないため質問させていただきました。

(東日本住宅評価センター 建築審査管理部 構造設備グループ 池田朝三)

回答

釣合鉄筋比を超えるということはすなわち, 圧縮側のコンクリートで許容曲げモーメントが決まるということであり, その場合, コンクリートの存在応力度が許容圧縮応力度を超えないことを確認する必要があります。

なお, 釣合鉄筋比を超えるようなスラブは, クリープ変形などたわみの心配があるので, あまり好ましくないように思います。